

芦屋市指定文化財（寺田遺跡出土黄釉鉄絵陶器盤）について

1 指定区分

芦屋市指定有形文化財

2 指定年月日

平成25年5月1日

3 名称（よみ）

寺田遺跡出土黄釉鉄絵陶器盤

（てらだいせきしゅつどうかゆうてつえとうきばん）

4 員 数

1点

5 所有者

芦屋市

6 収蔵施設

芦屋市立美術館（芦屋市伊勢町12番25号）

7 年 代

平安時代末～鎌倉時代初頭頃（12世紀末～13世紀初頭頃）

8 概 要

本資料は、寺田遺跡（西芦屋町）で平成13年度に実施された発掘調査で出土しました。

大きさは直径34.6cm、高さ9.3cmで、黄色の釉薬が内面全体に施されており、底部内面には褐色の鉄絵（酸化鉄を含む顔料による絵付け技法）によって、一輪の牡丹の文様が描かれています。

手の平程の大きさに割られて、径35cm、深さ30cmの円形の穴の中に入れられており、その上には東播系須恵器捏鉢の破片が置かれていた。このような出土状況から、地鎮など、何らかの祭祀に用いられたと推定されます。

これは、中国福建省の磁竈窯（じそうよう）産の製品で、華中明州（めいしゅう）を経由して貿易港である博多に入り、瀬戸内海航路で東進し、神戸市大輪田泊（おおわだのとり）または尼崎市大物（だいもつ）遺跡周辺を経由して芦屋の地に入ったと考えられます。

黄釉鉄絵陶器盤は、日宋貿易における大陸との窓口であった福岡県博多遺跡群（当時の博多港）において集中的に出土しているものの、全国的に類品が乏しく、兵庫県下では本

例の他に、平安京及び瀬戸内海の重要な物流の中継地であった尼崎市大物遺跡から出土した一例が確認されているのみです。

このように、本資料は、平安時代末の日宋貿易による海外との交易や当時の芦屋の国際性を考える上で貴重な資料です。



寺田遺跡出土黄釉鉄絵陶器盤